

2023 年度

— 2022.9.12 —

社会学研究科入学試験問題(修士課程)

専門科目 「社会学」

【解答における注意事項】

1. 次ページ以降に問1と問2があります。その両方に解答しなさい。問1と問2の解答は、それぞれ所定の解答用紙に書きなさい。
2. それぞれの解答用紙の所定の欄に、受験番号と氏名を書きなさい。
問1の場合は、さらに、(1)～(6)のうち、(以下の説明にしたがって)あなたが選んだ設問番号も書きなさい。
3. 問1には、(1)～(6)の6問がありますが、そのうちの1問だけに解答しなさい。
その際、あなたが入学志願者調書C(出願書類の一つ)に記述した研究計画の研究領域に近いとあなたが考える専攻分野の設問2問のうち1問を選び、解答しなさい。

科目「社会学」

問1 以下の設問のうち、あなたが入学志願者調書 C(出願書類の一つ)に記述した研究計画の研究領域に近いとあなたが考える専攻分野の設問2問から1問を選び、問1用の解答用紙に解答しなさい。

その際、解答用紙の所定欄に受験番号と氏名を書いた上で、選択した設問番号((1)～(6)のうち一つ)を明記して解答しなさい。

<社会学>

(1) 社会学の理論・学説や概念をもちいて、社会のなかで生きる個人の「自由と平等」のあり方についてどのような考察が展開できるか、詳しく論じなさい(なお、理論・学説や概念は複数もちいてもよい)。

(2) 社会学において、理論と実証は様々な社会現象にアプローチするときの重要な要素である。理論枠組みにもとづいて社会調査を企画し、得られたデータを分析するとき、社会現象を因果関係という観点から考察することは、非常に重要である。どのようなアプローチや考え方をを用いることで、私たちは因果関係を明らかにすることができるのだろうか。近年の因果推論をめぐる議論もふまえて、因果関係を明らかにするためにどのようなアプローチや考え方が社会学には存在するのか。複数の考え方を比較しながら、論じなさい。

<社会心理学・メディア研究>

(3) ニュース報道のプライミング(priming)効果とフレーミング(framing)効果について具体例を挙げながら説明しなさい。

(4) 社会的葛藤の具体例を挙げ、社会心理学の複数の理論・考え方をを用いて、それが生じる原因と解決策について論じなさい。

<文化人類学・民俗学>

(5) 国民国家は現代社会においてどのように位置づけられるか。具体的な例を取り上げ、何らかの先行研究における理論と関連づけて論じなさい。

(6) 本質主義と相対主義はどのように説明できるか。具体的な例を取り上げ、人類学における論争の歴史を踏まえて論じなさい。

問2 (問2用の解答用紙の所定欄に受験番号と氏名を書いてから解答しなさい)

志願者調書 C にて、あなたが提出したご自身の研究計画の社会的な貢献について伺います。a)現代の社会に見られる解決すべき問題としてあなたは何を挙げますか? b)あなたの研究はこの問題の解決にどのように貢献しますか? 解答用紙一枚以内で書いてください。

科目「心理学」

下記の5問から4問を選択して解答しなさい。

1. 心理学の実験研究における反応時間の計測の意義と留意点について、具体例を含め述べなさい。
2. 社会的参照とはどのような行動であり、どのような機能を持つかについて述べた上で、社会的参照の発達過程について説明しなさい。
3. ストレス反応の神経内分泌メカニズムについて説明しなさい。
4. 言語的な指示で検査が出来ない乳幼児や障害児等の視力の測定方法について論じなさい。
5. 感情研究の認知心理学的意義と生理・神経心理学的意義について述べなさい。

科目「教育学」

※ 指示に従って以下の問いに答えなさい。(問題Ⅰ、問題Ⅱはそれぞれ別の解答用紙に記入すること。また、問題Ⅱについては、選択した問題番号を必ず解答欄の冒頭に記入すること。)

【問題Ⅰ】

OECD (経済協力開発機構) では、2015 年から OECD Future of Education and Skills 2030 プロジェクト (Education 2030 プロジェクト) を進めてきている。このプロジェクトの狙いについて、OECD 教育スキル局局長のアンドレアス・シュライヒャーは以下のように述べている。

昨今の教育は、子どもたちに「何かを教える」ということにとどまるものではない。一人一人の生徒が、信頼できる「コンパス」を持ち、より変わりやすく不確実、複雑で曖昧(volatile, uncertain, complex and ambiguous: VUCA)となる世界においても、自信をもって、自らを導いていくことができるよう手助けするものによって変わってきている。Education2030 プロジェクトで作上げた「ラーニング・コンパス」は、そのための方法を示すものであり、様々な状況に対応していくことができるよう、生徒が何を学ぶべきかについての、共通の未来像と言語を示すものである。

ラーニング・コンパスにおいては、優れた教育を行っていくための重要な要素が示されている。それは、アイデンティティや、目標をもつこと、好奇心(心を開くこと)や共感性などである。これらは、エージェンシーを育てていく上での、現代における最大の敵—すなわち、無知(知性の欠如)や敵意(閉ざされた心)—と戦っていく上での、最強の武器になる。

(白井俊 (2020)『OECD Education 2030 プロジェクトが描く教育の未来—エージェンシー、資質・能力とカリキュラム』ミネルヴァ書房、p.v.より [白井俊氏は現在、文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課教育制度改革室長、国立教育政策研究所フェローである])

OECD のこうした動向と、ここで表現されている教育観について、あなたはどのように考えるか。あなたの教育的な関心から論理的・批判的に論じなさい。

【問題Ⅱ】 以下 4 問の中から 1 問を選択し、解答欄の冒頭に選択した問題番号を明記した上で解答しなさい。(問題Ⅰとは別の解答用紙に記入すること)

問 1 : 近代教育の行為原理として「陶冶可能性の想定」がよくあげられるが、これはいったい何を意味するのだろうか。哲学的ないしは思想史的に論じなさい。

問 2 : 第二次世界大戦前後の日本の学校教育制度における連続性と不連続性について、それぞれ具体的事例を一つずつ挙げながら論じなさい。

問 3 : 教育制度に関する「単線型」「分岐型」「複線型」という類型化の長所と短所について、比較教育学の観点から、あなたの見解を論述しなさい。

問 4 : 学習や成長を促すような環境について検討する上で重要だと考えられる教育心理学の複数の理論を取り上げ、それらを説明しつつ、教育環境のあり方について統合的に論じて下さい。

科目「小論文」

慶應義塾大学大学院社会学研究科は学術大学院であり、教職大学院ではありません。現職教員が、教職大学院ではなく学術大学院で研究を行うことには、どのような意義があると考えますか。ご自身の今までの教育実践や、これから探究したい研究課題と関連させて、具体的に論じて下さい。